**第４回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会緑整備部会記録《要旨》**

○日時　　平成２６年１２月２日（火）　１５：００～１７：００

○場所　　大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第１応接室

（吹田市千里万博公園１－１　万博記念ビル４階）

○議題　　万博記念公園将来ビジョンについて

○出席委員等　　石川部会長

尼﨑専門委員、甲谷専門委員、山本専門委員（５０音順）

○事務局　　府民文化部理事　ほか

**【開会】**

＜府民文化部理事挨拶＞

**【議事】**

＜資料説明　資料２＞

**石川部会長**

本日は、森の育成、日本庭園整備の方向性、シンボルゾーン整備の方向性について、　　議論させていただきたい。

まず、森の育成から、審議を始めたい。

**甲谷専門委員**

「参考資料：森の育成」の５ページに、「育成の基本的な考え方」として、「①森の構造の承継」「②多様性の向上、生物生息環境の確保」「③研究の場」「④人々の利用」と４つの項目が記載されている。

私は、これら４つの方針について、非常によいと思う。前回の部会で、山本専門委員　　から万博公園は実験の場という旨のご発言があった。そのようなところもあるので、　　短期的にはこの４つを目標にして、このような手法でやっていくという書き方にならざるを得ない。

しかし、「③研究の場」「④人々の利用」については、もう少し具体性があった方がよい　　のではないか。

**山本専門委員**

将来像として、「人と自然」「人と人」「人と文化」と記載されている。いずれも、人を　　　　中心にしながらこの森を考えていくという考え方。これは非常によいと思う。

「２　育成の基本的な考え方」記載の４つの柱は、いずれも捨て難いもの。踏襲して　　　いただきたい。確かに、「③研究の場」「④人々の利用」に関しては、具体的な部分が　　　　見えないところはあるが、これまでの議論の中で複数の案はお持ちであったと思う。　　　それを示していただければよいのではないか。

「④の人々の利用」をどこまで書き込むのかは難しい。森との関係で人々の利用を　　　考えるとなると、具体的な行動や個別項目になってしまう。とても煩雑になってくるので、大きく数点について書いていただく形でよいのではないか。

１０ページの目標像のところで、針葉樹林についてスギ林と限定しているところがある。その限定が本当によいのか、養父専門委員のご意見も聞きながら最終決定する必要があると思う。

**尼﨑専門委員**

第１回の部会で出てきた、自立なのか自律なのか、森の性格をどう考えるのか、という話からずっときているが、前回部会の養父専門委員からのご指摘で、かなり整理されたと思う。

事務局として、そのご指摘をどのように捉えられたのか、説明いただきたい。

**事務局**

養父専門委員のご指摘は、大きく２点。

一つ目は、照葉樹林は、土中の種子、土中の微生物というものが補完されなければ、　　完成しない。表土の改良を少量ながらでも行う必要があるというご指摘。これについては、照葉樹林のところで、環境に影響を与えない範囲で実施を検討する旨記載している。

二つ目は、萌芽更新。クヌギ、コナラは、萌芽更新をさせないと樹勢が衰えるため、　　　大木とならない樹種。大木となる落葉樹を選び、萌芽更新を行うことを考えなさいというご指摘。

これについては、現在万博公園にあるケヤキ、アキニレ、エノキを萌芽更新により大木にしていくことと、萌芽更新を行うが大木とはしない森の区域を設定するとしている。

**尼﨑専門委員**

密生林、疎生林などは、どういう概念の言葉なのか共有できていない。他にも表現は　　ある。照葉樹林、落葉樹林とか、針葉樹、混交林とか、それらは、森を育成させようと　　　いう考え方。

自然の中では、照葉樹林は照葉樹林でサクセッション（遷移）を繰り返す。ある程度　　　人の育成管理の中で遷移を固定化しようとするのか、サクセッションを手助けしようと　するのか、どちらの考え方なのか。

**事務局**

照葉樹林は、サクセッションが進むよう、林内の環境を熟成させるため、手助けを行う。一方、その他のところは、萌芽更新や常緑樹の選択除伐を行うなど、多様な森を造るため、サクセッションを固定する。

**尼﨑専門委員**

多様な森というのは、自然の樹林環境の保護や、人々とどう関わっていくのか、森から　　何を学ぶのか、そういう関係のあり方みたいなものと関係してくる。

研究の場という言葉が出ているが、都市の中の自然、自然らしい自然、人との関わりの中での自然のあり方を模索していく、そういうことだと思う。

今まで、森の中でどういう文化が育まれてきたのか。これから私達はそこでどういう　文化を育んでいくのか。自然観察学習館における活動など、育成していくという意味では整理ができていると思うが、我々の中では、自立なのか自律なのかというまとめが　　　できていない。

**石川部会長**

密生林、疎生林、散開林というのは、単なる形。

万博公園では、大阪万博から５０年近く経って森が育った。その森の植生図があるわけ　だから、私はどのように森が育ってきたのかという現況植生をきちっと見た上で、将来の　時間軸を考え、論理に従って着地させていくべきだと思う。

私は、５ページから６ページの大まかな考え方はよいと思う。しかし、「『都市公園と　　しての森』『環境保護として再建される森』が交錯する新しい森」という表現は反対。　　　都市公園の森は環境保護として再建される森のようなものではないような言い方に　　なっている。公園開設から５０年近く経った。要するに「こういう都市公園」ということ。公園を造った時は、苗木を植えて一生懸命森を造るというところがあったが、５０年　　経って育ってきたわけだから、この２つの概念が交錯すると混乱してしまう。

これは、５０年経って共存する形が出てきたと捉えたい。

皆さんの目の前に、「現況植生概念図」と「将来の目標とする植生概念図」の大きな　　　図面が用意されている。この２つをよく見ると、自然文化園地区西側の一部しか変わっていない。要するに、将来目標とするところはここだけ。それで本当によいのかどうか。

「資料２」の１２ページには、「水系の保全と活用」という項目があるが「将来の目標とする植生概念図」には、水系が記載されてない。この図の中に水系をきちんと入れる　　べきだと思う。

「参考資料：森の育成」７ページの分類は、雑だと思う。

密生林、疎生林、散開林という分類ではなく、常緑広葉樹林、常緑落葉混交林、落葉　　　樹林、というような、誰にでもわかる分類にしていただきたい。

密生林、疎生林、散開林という分類にすると、何がなんだかわからない。常緑広葉樹林のものに関しては、将来的には自立した森にする。萌芽更新は人間が手を加えなければ　ならないわけだから、森の分類で人間が手を加えてよいか否かわかるようなものにすべき。

そうすると、自立する部分がどこで、人間が手を加えなければならない部分がどこなのかが明確になる。手を加える部分も、１年に何回もやるところと、萌芽更新でたまにやる　　　ところというように、グラデーションを出す。

つまり、この樹林の分布をきちんと学術的に分類していただきたい。

**山本専門委員**

万博公園には、森の中の道として、外側から上津道、中津道、下津道がある。

公園開設時の予定としては、内側は散開林に近く利用を促進する部分で、外側は密生林の部分も通れますよ、というような位置づけが強かったのではないか。

**石川部会長**

今後どうするのかという考えがないといけない。これらの道をどう位置づけるのかと　いう観点からも、この森の将来像と考えなければならない。

**事務局**

中津道は舗装されていて、上津道は地道。上津道の元々の位置づけは、休息と散策。

**石川部会長**

これからよい森を造りましょうと仰っているが、実際に図面を見ると、変えている　　ところは少ない。

**事務局**

外側に常緑樹林を造って包み込むような考え方。

**石川部会長**

しかし、包み込む森がもやし林なので、多様な森を造ろうという内容で文章を書いて　いる。

**事務局**

その部分は、もやし林を多様な森に変えていくことを主眼としてやりたい。

**石川部会長**

多様な森とは、どういう森なのか。

**尼﨑専門委員**

明確な名称も含めて、学術的な生態の姿を表現するようにしましょうということと、　ゾーニングと計画がない、こういう話ですね。簡単にいうと。

**石川部会長**

例えば、萌芽更新の森にするという計画があるが、なぜ、萌芽更新する部分とそうで　　ない部分に分かれるのか。

**尼﨑専門委員**

簡単にいうと、防護林。

それでよいのかという議論は、この公園の密室性、植生と外との関係を持たせれば　　どうか、というご意見が以前の部会であった。そういうことも含めた計画論がないと　　いうこと。

**石川部会長**

私は、植生図が存在して階層構造を把握されているわけだから、それに基づいて、三層　　構造になっているところは自立する森としてやっていきましょう。二層構造になっている　ところは、このように変えましょう。という道筋を、今日、お見せいただけるものかと　　　思っていた。

**事務局**

上津道については、自立した森という計画論に対して、現実的には三層構造になって　　いない。それが大きな課題。それを改良していきましょうというのが、今の取組み。

中津道のように、たくさんの人が歩かれている道とどのように差別化を図るのかが課題。

**石川部会長**

そのようなお考えがあるのでれば、例えば、この部分は単調なので所々落葉を入れて　少し明るい森にしましょう。単調な森の遷移や違いを、人間の力ではっきりさせて楽しく歩けるようにしましょう。というのであれば、それはそれでよいと思う。

でも、見る限り、図面上ではそれが表現されていない。

**尼﨑専門委員**

部分では考えておられると思うが、相関関係や全体の空間の中での人の動きなど、動線も含めたそれらの大きな計画論が必要だということでしょうね。

**石川部会長**

常緑広葉樹林から始めて、粛々と植物生態学の分類に従って書いていただきたい。

９ページに照葉樹林とあるが、高木層と亜高木層を一緒にしないでいただきたい。三層構造であれば、高木層と亜高木層をきちんと分ける。

針葉樹に関しては、アカマツがある。１０ページは追加を。

１１ページ、密度がこれでよいのかどうか。きちんとチェックをしていただきたい。

１２ページ、ケヤキなどは水辺に出てくるので、これを特別な分類にするのであれば、　　セクションに水辺を入れていただきたい。

「将来の目標とする植生概念図」に、水系の図面を入れていただきたい。池の周りに　　　関しては、水辺ビオトープという形で違う類型にしていただきたい。ここは、水辺の　　　生態系を活かしたやり方をしなければならないし、この分類の中に水辺ビオトープなど　項目を入れて、そこを重点的に水辺ということを重視して、ビオトープの池で植生を　　つくる。

森だけではなくて、水がないと森が成立しないわけだから、それを仲間に入れて　　　いただきたい。森は、植物だけではないわけだから。

**尼﨑専門委員**

これはデータ。このデータを基にして、どのように進んでいくのかという計画論が提示　されていない。わかりにくいところはある。

配置の考え方について整理が必要。どうしてそのようなゾーニングがなされていて、　人の動線がこのように通っていて、どのように自然を感じ取ったりしていくのか。生態的な面と、水辺の環境や、こういう樹木や地被がある、などと整理すれば立体的になる。

**石川部会長**

森に関しては、分類と、人の関与をどうするのか、それに伴ってどのような利用が可能　　なのか、というまとめをさせていただくということで、よろしいでしょうか。

（異議なし）

続いて、日本庭園の議論に移りましょう。

日本庭園は、現況と将来像が全く同じものとなっている。それでよいのかどうか。　　　「資料２」の１６、１７ページに関して、ご意見をいただきたい。

前回の部会で、園芸文化といわれていたが、どこに入っているのか。

**事務局**

お茶と食を中心に庭園文化を発信していくという形で集約している。日本庭園では　　「名景・銘木」の命名、分かり易い視点場の再生ということで、日本庭園をきっちりと　　　見ていただくというところに集約した。

**石川部会長**

園芸という形では、今回は挙げていないということなのか。

**事務局**

前回の部会における議論で、伝統園芸文化という切り口だと、あまりにも巨大に　　　なりすぎるということだったので、日本庭園が今持っているポテンシャルに焦点を絞る形でまとめている。

**尼﨑専門委員**

日本庭園は作庭者の意図が大きい。その意図で造られた空間をどう捉えるか、そういう　視点のものだと思う。日本庭園で最も重要なのは、質の高い空間であること。どのような　　形態、様式であろうと、質が高くて管理密度が高いということが、日本庭園において最も　　重要なこと。それは、資料にきちんと反映されている。

これだけの広大な空間を全部回るのはしんどい。ある部分であっても楽しめる。だから、お茶の飲める空間や池が見える空間があるということは、重要なこと。

八景などは、人が親しむ基本。こういったものを取り入れることは極めて重要。

**事務局**

ご指摘の八景を重点管理ポイントとして図示にしたものが、「資料２」の１７ページ。　　園内に散りばめられているが、これらを集約すると十二景となる。

**尼﨑専門委員**

万博公園の日本庭園の性格は、大名庭園。いろいろな時代のものがあって、それが集約　　　されてきて、いろいろな遊びがそこでなされる。もてなしの空間。

いろいろな遊びがあって、それがこの庭園で何がふさわしいのか、ということだと思う。八景と関わるような遊びがあるとよい。

**石川部会長**

重点管理ポイントの印は、何を示しているものなのか。

**事務局**

景観管理をしっかりするポイントであって、遊びの要因として設定するのは、園芸植物展示場、園内レストランの部分。

**山本専門委員**

視点場（眺めを楽しむ場所）と主対象（視点場から眺められる主要な対象物）が混在　　している気がする。

八景を見る場合、場という目で見ればいろいろ遊ぶ要素が発生して、視点という目で　見ればその点から見るだけということになる。切り分けを行うことで、少し整理ができるのではないか。

**石川部会長**

皆さんが楽しんだりする場所は日本庭園なので、視対象であり視点場であってほしい。よい景色が見える場所がにぎわいの場というわけではないが、少なくても、おもてなしをしたり、にぎわったり、そういうところは日本庭園の中で景観とセットになっていな　　ければならない。そうでないとつまらない。

視点場であり対象物が見える。そこが、この広い日本庭園の中でもここですよという　のが、八景になるのではないか。はす池、洲浜、滝、竹林など、八景を挙げていただいて　　　いるが、それをきちんと資料に出していくことでよろしいでしょうか。

それから、この周辺は現存の植生のままですが、これでよいのでしょうか。

**甲谷専門委員**

手の入れようがないのではないか。植生を変えることは、そもそも日本庭園をやめる　のかという話になるのではないのか。

**尼﨑専門委員**

周辺の樹木との関係というのは、非常に微妙。

**甲谷専門委員**

周辺はもっとグレードを落としてもよいというのか。上げてもよいということなのか。

日本庭園の質を保つためには、徹底的に管理することが重要。それしかない。

**石川部会長**

最後にシンボルゾーンの整備について、議論させていただきたい。「資料２」の１４、　　　１５ページであるが、これについてご意見をいただきたい。

**尼﨑専門委員**

資料に空間構造が書かれていないので、非常にわかりづらい。

**石川部会長**

１５ページの図面には、日本庭園の芝山まで入れていただきたい。そうでなければ、　　　ヴィスタが通らない。

皆さんの前にある図面で見ていきましょう。

「太陽の塔」周辺の広場には、メタセコイヤやヒマラヤ杉などが生育して非常に　　　よい環境となっている。評価して継承。その付近のケヤキ並木は立派。これも継承。

中央口の部分については、基本計画の中でしっかりと検討していただきたい。

幸いなことに、「太陽の塔」から北側を見ると、その先には高層の建物がない。これは　　　条例において景観保全を担保すべき。

お祭り広場の大屋根は、このまま残す。ヴィスタを活かした緑の連続性を確保するため、日本庭園前駐車場は緑整備部会として移設を提案。ただし、手法はコストとの関係で検討

を行う。

お祭り広場の階段（フェスティバルスタンド）部分は、ヴィスタを通すため、なだらかな形で斜面を設けることとする。

その先では、大地の池と夢の池の水系が分断された形となっている。両方の池の水位は、あまり変わらないようだ。つなぐか否かは別として、気持ちとしては万博公園の中で横軸に水が通っている方がよい。そう、ダイナミックに。縦と横がクロスする大事な場所と　　いうことで、水は消さない方がよい。

「月の世界」は、ヴィスタを通すため移設。バラ園も移設。

国立民族学博物館や大阪日本民芸館の前周辺は、たくさんの人が行き交う、いわば、　　　十字路になるところ。ここは疎林のような形にして、現存の切石を活用して足元は　　　歩きやすいようにする。ここに違う広場を持ってくると、景観としてけんかをすることに　なるので、緑のヴィスタが連続するようなものをニュートラルにつなぎながら入れるようにする。

ここでお弁当を食べたり、遊べるような空間があってもよいのではないか。

まとめると、しっかりとした軸線をとっていく。よいものは残して、問題のあるものは　　移設する。水との関係は何らかの形で取り入れて、その北側は緑のしつらえを行う。その　　ような感じになる。

このページを、皆さんにご相談したものと差し替えることでよろしいでしょうか。

（異議なし）

時間が少し超過しましたが、マイクを事務局にお返しします。

**事務局**

本日のご議論を踏まえ、修正内容については、部会長にご覧いただいて委員の皆さまにもご報告させていただく。その上で、本審議会に臨みたいと考えている。

**尼﨑専門委員**

最終的には、部会長一任ということですね。

**事務局**

そのようにさせていただきますとありがたいです。それでは、本日の部会を終了させていただきます。皆さま、遅くまでお疲れさまでした。

以　　上